

R6 特別の教育課程についての自己評価・学校運営協議会による評価

1. 学校評価（教員）

(1) 「プロジェクトタイム」

- ・令和6年度より、市「未来の学び研究推進事業」の3年間の指定を受け、外部講師等の指導・助言のもと、カリキュラムの見直しと試行を行っている。質の高い学習に向けたヒントを得ることで、課題が整理でき、次年度の研究の方向性を明確にすることができた。
- ・令和6年度は、各学年の探究課題に沿って前年度の学びを生かしながら、体験活動や調査・分析活動を通して探究的な学びを行うことができた。地域を生かした学習については、これまでの継続的な取組によりスムーズな連携が図られ、子供たちにとって貴重な地域理解学習の機会となっている。

(2) 「コミュニケーションタイム」

- ・全学年の授業において2人のALTがサポートを行い、児童生徒が本物の英語に触れる機会を通年で豊富に設けている。
- ・前期課程低学年では、他教科等と連携しながらコミュニケーションスキルを段階的に身に付けることができた。高学年では、動画によるCMづくりや文化祭での発表などを通じて目的に応じて表現する力が身に付いてきた。後期課程では外国人とのオンライン会議等で英語でコミュニケーションを行うなど、各学年の発達段階に応じてコミュニケーションの力が付いてきている。
- ・今後の課題は、学習環境や時代背景の変化に応じて英語や情報教育の内容を見直し、プロジェクトタイムとの関連をより明確にしていくことである。

2. 学校運営協議会評価

(1) 「プロジェクトタイム」

- ・松東地区の豊かなリソースを生かした学習内容になっている。各学年で発信の場が設定され、子供たちにとって地域の魅力発見の機会になっている。また、外部人材を積極的に活用しており、開かれた学校づくりが具現化されている。
- ・今後は、表現力や発信力の育成が重要である。地域を生かした学習の発信の場をさらに設けるなど方法を工夫し、「みらい探究科」での学びをより多くの方から評価してもらうことを期待している。

(2) 「コミュニケーションタイム」

- ・1年生からの英語教育は本校の大きな魅力である。ALTとの対話を児童が楽しんでいる様子も他校にはない光景である。また、隣接のこども園とも英語交流をしており、幼保小の連携を通して英語によるコミュニケーション力が高まっている。
- ・ICTを活用した情報教育はこれからの時代に不可欠である。1人1台の学習用端末をさらに生かし、これからの時代に適した教育を展開してほしい。